

経済・金融 フラッシュ

台湾 7-9 月期GDP:前年比+3.37% ～成長鈍化が鮮明に、今後も伸び悩みは続く

経済調査部門 研究員 高山 武士

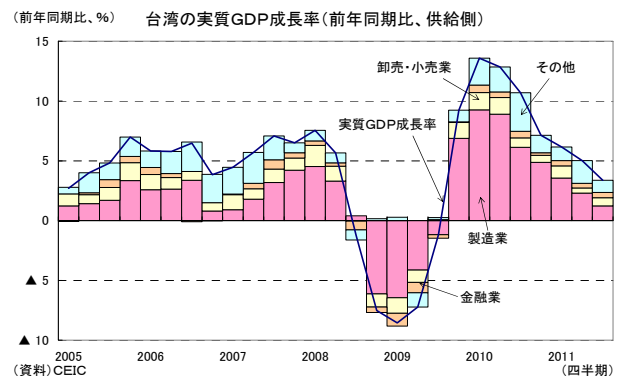
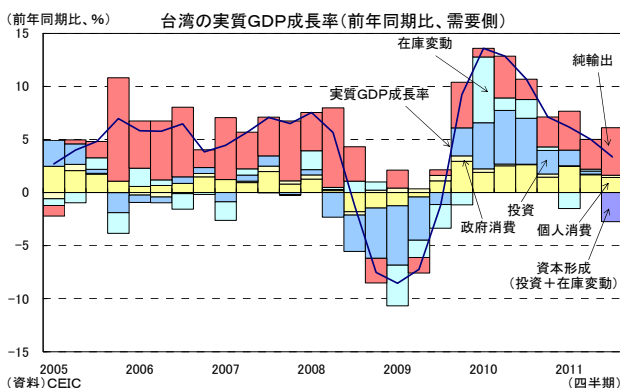
TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 現状:成長鈍化が鮮明に

台湾の行政院主計処（DGBAS）は10月31日、7-9月期の実質域内総生産（GDP）の速報値を公表した。成長率は前年同期比（原系列）で3.37%の増加となり、8月時点で同機関が予測した3.48%を下回る結果となった。また、前期比年率（季節調整済）では▲1.10%となり成長鈍化が鮮明になった（8月時点の予測は▲0.62%）。

7-9月期は内需、外需共に減速したが、中でも資本形成（投資＋在庫変動）が前年同期比▲13.45%と大幅な縮小を見せた。世界経済の失速を受けて、電子機器メーカーの受注減少と生産縮小、設備投資減額の影響を受けた結果となっている。これに伴って、輸出の伸びも前年同期比で+2.21%となり、1-3月期（同+11.18%）、4-6月期（同+4.39%）からさらに減速した。ただし、7-9月期は輸入も前年同月比で▲4.75%と大きく縮小したため、純輸出では成長にプラスに寄与している（純輸出の寄与度：+4.48%ポイント）。

なお、輸入の減速が大きいことから、7-9期は海外からの原材料・資本財の調達を抑制し、国内の在庫調整を進めたものと推測される。この場合、資本形成の減少には投資の低迷だけでなく、在庫の取り崩しが少なからず寄与していると想定される¹。



¹ ただし、速報値では資本形成の内訳（投資分と在庫変動分）が公表されておらず、在庫減少が資本形成の押し下げにどの程度寄与しているかは不明である。

2. 先行き: 伸び悩みは続く

台湾における製造業のGDPシェアは約3割であるが、成長率への寄与という点では、製造業は台湾の経済成長に大きく貢献している。とりわけ台湾では、製造業の中でも大規模なEMS（電子機器受託生産）メーカーが多く、受託製造を中心とする産業構造であるので、外需が経済成長に大きな影響を与える²。これは、台湾における輸出依存度（73.6%）にあらわれており、主要産業で競合している韓国（52.4%）や日本（15.2%）と比較しても高い数値となっている。

したがって、先行きを占う上では、外需の動向やこうしたEMSメーカーの動向を見るのが重要となる。

実際に、貿易統計や台湾の主要電子機器メーカーの決算には7-9月期の成長鈍化は表れており、貿易統計からは、2011年後半の輸出低迷、特に先進国向けの輸出が目立って減速していることが読みとれる。また、主要企業の決算数値からは、7-9月期に大きく売上高、純利益が減少していることが分かる。

先行きについては、世界経済が軟調で、半導体業界や液晶パネル業界など台湾にとっての主要産業を中心に需要の落ち込みが継続すると推測されることから、台湾経済にとって苦しい状況が続くと思われる。なお、世界経済の不透明感から、行政院主計処は先行きの経済成長率見通しを、2011年では+4.56%（8月時点の予測値+4.81%より下方修正）、2012年は+4.38%（同+4.58%より下方修正）とした³。

一方、台湾では来年1月に総統選を控えている。有力候補は現総統の馬英九（国民党）と野党民進党の蔡英文であり、現時点で両者の支持率はほぼ拮抗している。選挙の争点是对中政策であるが、馬総統としては景気が低迷している中での選挙戦は避けたいところであり、輸出拡大などの景気刺激策を打ち出す構えを見せている。

海外の需要が経済成長を大きく左右する台湾にとっては、国内の景気刺激策だけで経済を活性化させるには限界があるが、「急ブレーキ」がかからないように下支えする役割は果たすだろう。

台湾の貿易統計(前年同期比)

	輸出伸び率(地域別)							輸入伸び率(財別)			
	(シェア)	うち中国本土	うち香港	うち米国	うち欧州	うち日本	その他地域	うち資本財	うち原材料	うち消費財	
	(100.0)	(28.0)	(13.8)	(11.5)	(10.7)	(6.6)	(29.5)	(100.0)	(16.6)	(75.5)	(7.9)
2011年											
1月	16.6	10.6	0.3	25.7	9.8	8.4	32.7	11.8	28.7	9.4	6.8
2月	27.2	37.1	20.1	24.5	11.4	14.8	31.0	17.1	16.1	19.4	▲2.7
3月	16.6	9.7	9.4	21.2	25.1	▲3.1	26.8	8.0	▲3.8	10.3	11.5
4月	24.6	14.8	15.4	39.7	24.8	15.5	35.8	16.2	▲8.3	21.6	16.7
5月	9.4	2.2	▲4.0	29.9	15.2	0.8	15.9	8.7	10.2	9.0	2.4
6月	10.8	7.8	▲1.5	14.9	9.6	1.8	19.9	0.4	1.4	▲0.4	6.1
7月	17.7	14.8	15.6	22.5	7.5	4.1	25.7	2.2	▲12.0	4.5	8.9
8月	7.2	7.9	9.4	6.2	6.2	▲9.3	10.2	▲3.8	▲23.2	▲0.6	8.7
9月	9.9	9.6	16.4	3.8	8.8	▲8.4	14.3	1.4	▲31.1	8.5	13.4

(資料)CEIC

台湾主要企業の7-9月決算動向

分野	企業名	7-9月期		7-9月期		先行き見通し
		売上高	前年同期比	純利益	前年同期比	
半導体	台湾積体電路製造(TSMC)	106,483	▲5.1	30,434	▲35.4	・第4半期も減収見通し ・設備投資計画を下方修正
	聯華電子(UMC)	25,187	▲22.9	1,954	▲77.6	・需要減少が続く ・出荷、稼働率、利益は低迷
電子	奇美電子(チーメイ)	121,617	▲10.5	▲17,258	-	
	友達光電(AUO)	98,927	▲20.5	▲15,796	-	・設備投資、稼働率を下方修正 ・3カ月～半年は景気回復する兆しなし
	中華映管(CPT)	13,776	▲17.1	▲3,611	-	
その他	鴻海精密工業(ホンハイ)	665,660	0.2	19,177	▲8.6	・利益率は改善していく

(資料)各企業決算資料、各種報道資料

² EMSについて詳しくは、8月3日公表の経済・金融フラッシュ「[台湾 4-6 月期GDP：前年比+4.88%～中国依存が強まり、台湾・中国関係が重要に](#)」も参照。

³ 同時にCPIの見通しを2011年は+1.51%（8月の予測値+1.59%）、2012年は+1.12%（同+1.21%）と変更した。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。